

資料編

資料編

1 氷見市観光振興ビジョン策定の経緯

(1) 委員会の開催

第1回	日時：平成29年8月28日（月）13：30～15：30 場所：氷見市役所2階 202会議室 内容： <ul style="list-style-type: none">・計画策定の概要について・計画策定に関する意見交換
第2回	日時：平成29年11月27日（月）13：30～15：30 場所：氷見市役所2階 202会議室 内容： <ul style="list-style-type: none">・計画策定の概要（目指すべき姿、基本戦略等）について・計画策定に関する意見交換
第3回	日時：平成30年1月24日（水）13：30～15：30 場所：氷見市役所2階 202会議室 内容： <ul style="list-style-type: none">・観光振興ビジョン最終案の検討について・その他

(2) ワーキンググループ会議の開催

第1回	日時：平成29年10月5日（木）14：00～16：00 場所：氷見市役所1階 地域協働スペース2 テーマ：氷見の“宿泊”と“滞在”を考える アドバイザー：井門隆夫氏（株式会社井門観光研究所取締役）
第2回	日時：平成29年10月20日（金）14：30～16：30 場所：市役所2階 201災害対策室 テーマ：氷見の“広域観光”と“インバウンド”を考える アドバイザー：木村ともえ氏（一般社団法人とやま観光推進機構マーケティング部長）

2 氷見市観光振興ビジョン策定委員会設置要綱

氷見市観光振興ビジョン策定委員会設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、氷見市の観光振興の方向性等について協議を行い、氷見市観光振興ビジョン（以下「観光振興ビジョン」という。）を策定するため、氷見市観光振興ビジョン策定委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 委員会は、観光振興ビジョンの策定に向けて必要な事項の検討を行い、市長に対し報告することとする。

(組織)

第3条 委員会は、委員15人以内とする。

2 委員は、次に掲げる者について、市長が委嘱する。

- (1) 関係諸団体の役職員
- (2) 学識経験を有する者
- (3) 関係行政機関の職員
- (4) 前3号に掲げる者のほか、市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から観光振興ビジョンの策定終了の日までとする。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によって定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、まちづくり推進部観光交流・女性応援課において処理する。

(細則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成29年6月26日から施行する。

3 氷見市観光振興ビジョン策定委員会委員名簿

	区 分	役 職 等	氏 名	備 考
1	関係諸団体の役職員	一般社団法人氷見市観光協会 代表理事会長	松原 勝久	副委員長
2		氷見商工会議所 専務理事	京田 賢	
3		氷見市農業協同組合 理事兼金融部長	塚口 博幸	
4		氷見漁業協同組合 参事	井野 慎吾	
5		ひみ風の会 会長	谷内 和子	
6		氷見市宿泊体験推進協議会 会長	杉木 克己	
7		あいの宿・氷見 会長	叶 美千代	
8		J R氷見線応援委員会 委員長	山田 真功	
9		観光ボランティアつままの会 会長	林 紀男	
10		一般社団法人氷見青年会議所 理事長	三国 博之	
11	学識経験を有する者	富山国際大学 現代社会学部 教授	長尾 治明	委員長
12		東日本旅客鉄道株式会社 北陸営業センター 所長	奥村 聡子	
13	関係行政機関の職員	氷見市 まちづくり推進部 部長	山口 優	

(敬称略・順不同／計13名)

※役職等は平成29年8月現在

4 用語解説

	用語	ヨミガナ	解説
あ行	ICT	アイシーティー	【Information and Communication Technology】情報処理、情報通信のこと。IT に代わる言葉として用いられる。
	アフターコンベンション	アフターコンベンション	コンベンション後に楽しむイベント、ツアー、飲食、買い物、娯楽等のこと。
	アンテナショップ	アンテナショップ	自治体が都市部に開設する特産品の販売や観光情報を発信する施設のこと。富山県は東京に「日本橋とやま館」を開設している。
	IoT	アイオーティー	【Internet of Things】モノに通信機能を持たせ、インターネットに接続し自動制御、遠隔計測等をおこなうこと。
	インバウンド	インバウンド	英語で「入ってくる、内向きの」という意味。観光分野では、外国人旅行者を自国に誘致することを言い、訪日外国人旅行者をさす場合もある。
	インフラ	インフラ	基盤、下部構造のこと。転じて、特定分野の基礎・土台として機能する永続的、安定的な存在のこと。(例:ITインフラ、教育インフラ)
	エージェント	エージェント	代理人、代理業者のこと。観光分野では、旅行者に代わり旅行の手配をする旅行代理店のこと。旅行エージェント。
	SNS	エスエヌエス	【Social Networking Service】人と人の社会的繋がりをWeb上で構築するサービス。代表的なサービスは、Facebook、Twitter、Instagramなど。
	FIT	エフアイティー	【Foreign Independent Tour /Free Individual Traveler】団体旅行ではなく、個人で行う旅行のこと。
	OTA	オーティーイー	【Online Travel Agent】インターネット上でのみ取引を行う旅行会社のこと。(例:楽天トラベル、じゃらんnet、エクスペディア、ブッキングドットコム)
か行	寄港地観光	キコウチカンコウ	クルーズ船の寄港地で実施される小旅行のこと。ショアエクスカージョンとも言う。
	キラーコンテンツ	キラーコンテンツ	ある分野において、普及のきっかけとなるような魅力的なサービスや商品、情報などのこと。
	クールジャパン	クールジャパン	日本のまんがやアニメ、ファッションなど、海外でクール(=かっこいい)と捉えられている日本の文化・商品・サービス等のこと。
	ゲートウェイ	ゲートウェイ	入口、玄関のこと。観光分野では、特定のエリアの玄関口となる交通結節点や拠点施設等のこと。
	KPI	ケーピーアイ	【Key Performance Indicators】重要業績評価指標のこと。
	コンベンション	コンベンション	展示会や見本市、国内外から研究者が集う国際会議等のこと。

	用語	ヨミガナ	解説
さ行	サブカルチャー	サブカルチャー	社会の中心となる支配的文化に対し、下位文化をさす。一部の人々を担い手とする独特の文化、大衆文化、若者文化等のこと。
	周遊観光	シュウユウカンコウ	複数の観光地を移動し、宿泊地を変えながら巡る旅行形態のこと。
	世界農業遺産	セカイノウキョウイサン	世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域(農林水産業システム)を、国際連合食糧農業機関(FAO)が認定する制度のこと。(日本農業遺産は、その国内版で農林水産省が認定する。)
	セグメント	セグメント	英語で「部分、階層、区分」の意味。マーケティング分野では、購入者の年齢・性別・職業等によって行われる区分のこと。
た行	ターゲット	ターゲット	英語で「標的、まと」という意味。マーケティング分野では、販売などの対象のこと。
	滞在型観光	タイザイガクンコウ	1箇所の観光地に滞在し、静養やレジャーを楽しむこと。または、そこを拠点に周辺の観光を楽しむこと。
	着地型観光	チャクチカクンコウ	旅行者を受け入れる地域で作られる旅行商品のこと。旅行先で参加するオブショナルツアーなど。
	DMO	ディーエムオー	【Destination Marketing/Management Organization】地域の観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う組織のこと。
な行	二次交通	ニジコウツウ	拠点となる空港や鉄道駅から観光地までの交通のこと。主に鉄道駅からのバスや自転車等、目的地に赴くための交通手段をさす。
は行	パブリシティ	パブリシティ	プレスリリースやインタビューへの対応を通じてメディアに報道として自地域の製品やサービス等を取り上げてもらう広報活動のこと。
	PDCA	ピーディーシーイー	計画(Plan)→実行(Do)→評価(Check)→改善(Act)を繰り返すことで、継続的にプロセスを改善していく手法のこと。
	フィルム・コミッション	フィルム・コミッション	映画のロケーション撮影の際、撮影場所や地域住民との調整、宿泊施設やエキストラの手配等を行う機関のこと。
	プラットフォーム	プラットフォーム	英語で「土台」という意味。観光庁「観光地域づくりプラットフォーム」とは、地域内の着地型旅行商品の提供者と市場(旅行会社、旅行者)をつなぐワンストップ窓口機能を担う事業者のこと。
	ブランディング	ブランディング	競合する地域や商品・サービスとの違いを明確にし、消費者の関心を高め、購買を促進させることを目的に経営・販売上の戦略として、ブランドの構築や管理を行うこと。
	プロモーション	プロモーション	消費者に商品やサービスを認識させ、購買意欲を喚起する活動のこと。具体的には、広告、人的販売、販促、広報などがある。
	ホスピタリティ	ホスピタリティ	心のこもったおもてなし、思いやりのこと。宿泊業や運輸業、旅行業等をさしてホスピタリティ産業という場合もある。

	用語	ヨミガナ	解説
ま行	マーケティング	マーケティング	消費者が求めている商品・サービスを調査し、供給する商品や販売活動などを決定することで、生産者から消費者への流通を円滑にする活動のこと。
	MICE	マイル	Meeting(会議・研修・セミナー)、Incentive tour(報奨・招待旅行)、Convention または Conference(大会・学会・国際会議)、Exhibition(展示会)の頭文字をとった造語。
	道の駅	ミチノエキ	国土交通省により登録された商業施設・休憩施設・駐車場等が一体となった道路施設のこと。
	民泊新法	ミンパクシンポウ	訪日外国人旅行者の増加による宿泊施設の不足等を背景に、2017年6月設立した「民泊」という営業形態の宿泊提供に関する法律で、正式名称は「住宅宿泊事業法」という。
	モニターツアー	モニターツアー	旅行費用の一部をツアー企画者が負担することを条件に、モニターを募集し、旅行内容等について調査報告してもらう旅行のこと。
や行	ユニークベニュー	ユニークベニュー	英語で「特別な(ユニーク)会場(ベニュー)」のこと。美術館や博物館、歴史的建造物での会議やレセプションを開く
ら行	ランドオペレーター	ランドオペレーター	旅行会社からの依頼を受け、宿泊や飲食、ガイドや交通等の手配・予約を行う会社のこと。ツアーオペレーターともいう。
	リピーター	リピーター	同じ商品を気に入って、繰り返し購入する人のこと。また旅行などで、同じ地域を再度訪れる人のこと。
わ行	Wi-Fi	ワイファイ	無線でインターネットに接続できる技術のこと。日本は観光施設等での無料Wi-Fiの整備が、海外に比べ遅れているとの指摘がある。

5 氷見市観光に関連する注目ニュース（2017年度）

■「うみのアパルトマルシェ」がスタート（2017年7月～）

7月に中央商店街で第1回「うみのアパルトマルシェ」が開催された。約150メートルの区間が歩行者天国となり、軽食やスイーツ、雑貨など、約20店舗の市内外の人気店が出店し、若い女性や小さな子ども連れなど、大勢の買い物客が訪れた。11月までの5ヶ月間、毎月1回（第3日曜日）開催された。また、特別企画として、12月からは湊川沿いに建つ歴史的建造物（みなとがわ倉庫）で、「みなとがわのみのいち」も開催されている。（主催：うみのアパルトマルシェ実行委員会）



■一匁の「あすなろの木」が世界一のクリスマスツリーに（2017年12月）

そら植物園（代表 西島清順氏）を中心に展開する「めざせ！世界一のクリスマスツリープロジェクト」に一匁の「あすなろの木」が選定され、神戸で輝きを放った（12月2日～26日）。また、最終日に「氷見の日」としてPRイベントが開催された。



■第5回ふるさとパンフレット大賞「優秀賞」を受賞（2017年12月）

一般財団法人地域活性化センターが発表する「ふるさとパンフレット大賞」で氷見市の観光パンフレット「魚々のまち、氷見。」が「優秀賞」を受賞した。ブリ型に切り抜き、氷が印刷されたクリアファイルに入れることで新鮮さを表現したパンフレットは、「思わず手に取りたくなる」、「捨てずに取っておきたくなる」などのアイデアが評価された。



■速川定住交流センターがオープン（2018年1月）

氷見市への移住を促進するためのゲストハウスとして「速川定住交流センター（愛称：ソライロ）」がオープンした。速川地区は2015年に県の定住者受け入れモデル地区に指定されており、同センターは、NPO法人速川活性化協議会が主体となり、元建具店の作業所を県、市の補助金と法人の負担金で改修して完成させた。1階に地域の特産品を使ったカフェ、2階に宿泊者用2室（8名収容）が設けられている。



氷見市観光振興ビジョン

平成30年3月

発行者 氷見市 まちづくり推進部 観光交流・女性応援課
〒935-8686 富山県氷見市鞍川1060番地
TEL 0766-74-8106
